

2020年
2月10日

No.255

さざなみ

〒520-2141
大津市大江6丁目23-24
さざなみネット
 (金融労連・全国金融産業労働組合滋賀分会)
 TEL・FAX 077-545-5154

滋賀銀行従業員組合・年金者部会・さざなみネット合同旗びらき

異常な金融政策・地域政策を変え 地域経済や労働者に展望を

さざなみネットは、1月16日、滋賀銀行従業員組合および同・年金者部会と合同で「2020年合同旗びらき」を開きました。それぞれの役員9人が、内さざなみネットから3人が参加しました。

はじめに、中島滋賀銀行従業員組合執行委員長が次のようにあいさつをされました。

**政府や経団連の施策は大都市集中
銀行の施策も地域を縮小する方向**

地域をどうするかが重要な政治課題だと思うが、実施されていることは「大都市の国際競争力の強化」「スマートシティ・スーパーシティ実現に向けた取り組みの加速」など大都市集中施策である。一方滋賀銀行の施策の進んでいる方向は地域を縮小する方向だと思う。これで地域を守り地域金融機関として生き残っているのか懸念している。我々は地域の労働団体や経済団体と懇談し地域の研究機関と意見交換をして、具体化を進めていきたい。

次に年金者部会世話人を代表して倉見栄一さんが次のようにあいさつをされました。

組合の展望を持って

この1年意識を持って変えていきたい



雀に南天 岩波 美智子さん 画



日本の国はどうか、安倍政治がアメリカに従属し、労働力不足を外国人労働者で補うというが、根本的な解決にならない。政治・経済などいろいろな面で矛盾が噴き出ている。働く者や国民が力を合わす時であるが、その方向がはっきりしない。戦争に負けたときでも今ほど悲惨な思いをしていなかった。組合の現状を見ると、どのような展望を持っていくのか、みんなで考え、この1年方向を出して意識をもって変えていきたい。

最後に、山崎さざなみネット書記長が次のようにあいさつをしました。

**全ての労働者の生活の底上げを目指し
未来を切り開こう**

日銀の異常な金利政策や政府の地域政策によって、金融機関や地域経済が様変わりし、地域金融機関の経営が悪化、今後の展望が見えてこない。正規と非正規、都市部と地方など、あらゆる格差の是正を求め、膨大な大企業の内部留保を、還元

させ、全ての労働者の生活の底上げを目指して、未来を切り開こう。

八軒滋賀銀行従業員組合副委員長の音頭で乾杯の後、参加者は新しい年への決意など食事をしながら交流し、和やかに懇談しました。



野党連合で安倍政権を倒そう！市民と野党のつどい 「桜」疑惑の追及を通して 野党共闘から連合政権へ

2月1日、米原公民館において「滋賀2区の会」と「市民の会しが」が主催で、日本共産党副委員長の田村智子参議院議員を迎えて「野党連合で安倍政権を倒そう！市民と野党のつどい」が開かれました。会場いっぱいの480人が、さざなみネットからは2人が参加しました。

「2区の会」の村西俊雄共同代表（元愛荘町長）があいさつした後、「桜を見る会」追求本部事務局代理の田村氏が「『桜』疑惑の追及を通して野党共闘から連合政権へ」と題して講演。「安倍総理が、総理の座に居座り続けるために、ありとあらゆる物を私物化したことが象



講演する田村智子参議院議員



嘉田由紀子参議院議員
が国会報告

徴的に現れているのが『桜を見る会』」だと指摘。居座り続けるのは、憲法を「改正」して日本の歴史に名を残す総理大臣になりたいからで、根っこには憲法9条改悪があり、あいまいにすることができない問題だと強調しました。

また、招待者名簿の廃棄など、安倍首相に付き従って民主主義が壊れていく異常な事態を告発。安倍政権に代わる希望ある野党の政策を示し、野党連合政権を目指して「みなさんと一緒に頑張っていきたい」と力を込めました。

野党共闘の嘉田由紀子参議院議員が国会報告をした後、立憲民主、国民民主、共産、社会民主各党の県代表が共闘による総選挙勝利に向けて決意表明しました。

会場からは、農業、消費税減税、子育て支援、原発ゼロなどの願いを出され、参加者全員が「みんなで野党連合政権をつくろう」など願い

をコールしました。

感想

多額の税金が投入された公的行事である桜を見る会の招待者の過半数が自民党と政権中枢の推薦枠であったことが分かった。公的行事を後援会旅行の目玉にして、地元後援会員を大量に招待したことは、血税の私物化でモラルハザードだ。

野党が共同で追及する中で大きな世論に広がった。まさに市民と野党の共闘だ。今後の展開に期待したい。



願いをコールする野党と市民の代表ら

ひととき

1月15日、新装開場の京都南座で、前進座初春特別公演「人間万事金世中」を観劇した。

これは歌舞伎の作者として知られる河竹黙阿弥が、「ペンは剣よりも強し」の格言で知られるイギリスの作家リットン（Lytton）の「MONEY」を翻案し、発表した喜劇。開港によって西洋文明の発信地となった横浜を舞台に、心優しい居候者・林之助のもとに転がり込んだ莫大な遺産金を巡り物語が展開する。

伯父の勢左衛門をはじめ強欲な親類縁者が金を目当てに群がり、大騒動！人の心のありようが金を通して浮き彫りになる。いつの世も金の翻弄される人の姿を、可笑しみたつぷりに描かれている。現在の世の中ならどう描かれるのか、いろいろ想像してみるとなかなか楽しみである。

今年は雪もなく穏やかな正月でした。誰でもが平和で人間らしく働き暮らせる社会になり、みんなが笑って暮らせるように、健康に気を付けてがんばりたい。

